

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
28	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Mortality 6 years after inpatient treatment of female Japanese patients with eating disorders associated with alcoholism. 摂食障害の日本人女性における入院治療 6 年後の死亡率はアルコール依存症と関連した	
<b>執筆者</b>	
Suzuki K, Takeda A, Yoshino A.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Psychiatry Clin Neurosci. 2011 Jun;65(4):326-32.	
<b>キーワード</b>	
アルコール依存症, 合併症, 摂食障害, 日本, 死亡率	
<b>要 旨</b>	
<b>目的:</b> 本研究はアルコール依存症に関連した摂食障害患者の死亡率を明らかにするために実施した。アルコール依存症のない摂食障害患者および摂食障害のないアルコール依存症患者を比較し、アルコール依存症に関連した摂食障害患者における入院治療 6 年後の死亡率に注目した。	
<b>方法:</b> 対象は 1990 年から 1998 年に国立病院機構久里浜アルコール症センターに入院していた摂食障害あるいはアルコール依存症の 30 歳以下の日本人女性 164 人とした。アルコール問題に関する半構造化問診(摂食の問題, 精神障害および他の臨床的特徴)を入院時に実施した。生存に関する調査は 2001 年 10 月に実施し、対象者全員を追跡調査した。	
<b>結果:</b> アルコール依存症のある摂食障害患者 47 人, アルコール依存症のない摂食障害患者 86 人および摂食障害のないアルコール依存症患者 31 人の入院治療 6 年後の死亡率は、順に 27.7%, 3.5%および 19.4%であり顕著に異なった。 Kaplan-Meier 生存曲線では、アルコール依存症のある摂食障害患者の死亡率はアルコール依存症のない患者より顕著に高かったが、摂食障害のない若い女性のアルコール依存症患者ほどは高くなかった。死亡したアルコール依存症のある摂食障害患者 13 人は、神経性食欲不振症 5 人と神経性過食症患者 7 人だった。	
<b>結論:</b> 本研究の結果によりアルコール依存症の合併は神経性食欲不振症と神経性過食症患者の主要な死因であることが示唆された。	